湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　薬学部
名　前　中楯奨
作成日　2026 年 5 月 29 日

1.　教育の責任

本学は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念に基づき、人間の生命や尊厳を理解できる豊かな人間性と「薬学の医療専門職」としての知識・技術を修築して、保険、医療、福祉、教育の幅広い分野で地域の健康増進・公衆衛生を支え、寄与・貢献できる医療人を養成する。学生は、知識も経験も少なく、必ずしも将来のビジョンを明確に有しているとも限らない。そのような学生に対しても資質・能力を引き出し、どのように学修目標の達成に向けて指導していくか、という観点で教育を行うことが重要である。

担当科目

1年次 必修科目 化学系基礎科学	1年次 必修科目 化学系実習
1年次 必修科目 早期臨床体験実習	2 年次 必修科目 有機化学実習
3・4 年次 必修科目 薬学総合プレ研究	4・5 年次 必修科目 薬学研究 I
5 年次 必修科目 薬局実務実習	5 年次 必修科目 後期臨床体験実習

2.　私の理念・目的

1)　私の理念

私は、化学を通して多くの人々の健康に寄与できる学問の1つが薬学だと考えている。多くの薬が有機化合物である事から化学の理解は、薬が分かることにつながる。また、生体内では種々の化合物の有機反応が繰り返されているため化学の理解は生命現象が分かることにつながる。学修において、理解が大切だと考えている。勉強が大学入試制度の影響による安直な暗記が中心と誤解し、それにより勉強がつまらない、苦痛なものと思わせていしまっている。これに対して、化学の学修を通して、他の科目においても、理解に基づく記憶形成を目指す学修方法を身に着けさせるための教育の展開を意識している。また、教育においては、学生の成長をもって教えたとなるべきであると考えている。そのため、インストラクショナルデザインの考えに基づく講義設計、受講した学生の変化をよく見ることが必要不可欠である。学生をよく見て、学生個々に様々なアプローチを行うことによって学修方法・習慣を向上に導いていきたい。学生は6年間の在学期間を通して大きく成長できる。学生は、大学・大学教員を活用することにより、例え入学時に学力の差があったとしても覆すことが出来るほどの成長を得られることを信じて、努力を行し、将来、人々の健康に貢献して欲しいと願っている。

2)　理念をもつに至った背景

薬剤師は化学の知識を元に、医薬品・生体のしくみが分かり、このことから人々の健康増進・公衆衛生に貢献するものと考えている。臨床現場において活躍する多様な職種のうち、薬剤師は唯一、医薬品の構造式を理解できる存在である。薬剤師は日進月歩で進化している医療にかかわるため、薬学生は国家試験を合格が学びのゴールではなく、将来学び続ける必要があり、闇雲な暗記ではなく、理解中心の学修方法・習慣を身に付ける必要があると考えている。昨今、教育の質的保証として教育改善努力が促されてきたが、大学全体として十分な信頼が得られているとは言い難い。これまでの大学教員の経験において、特に入学時に学修方

法・習慣が未熟な学生は、教授錯覚に陥っている教員の講義による悪影響が大きく、一方で教員が適切に学修方法・習慣を指導することにより非常に大きく学力が向上し、入学時に学力が乖離していた学生と遜色なく、またはそれ以上の資質を備え薬剤師国家試験に合格し、薬剤師として活躍している例を多く見ている。これらのことから、理念を持つに至った。

3.　教育の方法・戦略

主に1年次の化学系基礎科学について示す。将来学び続ける必要のある知識を獲得するために、闇雲な暗記ではなく、理解中心の学修方法・習慣を身に付けさせる。その基本として、講義受講し、講義内容をノートに取り、復習して内容を理解し覚え、到達目標に到達するまで繰り返す。復習の際に実践するための小テスト繰り返しや自己評価の機会を設けるため、練習問題の配布、中間試験の設定を行う。

1) 教授方法

板書を中心とした講義形式。

2) 授業の工夫

単位修得のための到達目標到達に対しても国家試験を合格に対しても学修方法・習慣の向上の根底は受講の質を高めることが大切である。講義形式は敢えて、特殊な方法はとらずに、中学や高校で受け慣れている講義形式で行い、その学修スキルの向上を誘導することを意識している。まず、学生は分からないことを分かるようにするために講義を受講した上で学修するのであるが、講義自体で分かる部分が少ないと顕著に学習意欲が下がる。そのため、教科書記載の文言に対して、解釈、イメージ、一部話し言葉にするなどして、努力すれば分かりそうな印象を与える。講義内容をノートとる・まとめる手法は、講義受講の勉強の方法として有用な学習方法である。スライド中心の講義でノートは理解した後のまとめが主であるが、板書中心では受講時からノートを活用する必要があり、そのスキルを向上させることを考えると板書の方が有用である。また、板書の工夫として、板書自体がまとめたノートに近いものになるように工夫している。通常は、板書まではしない口頭の説明部分も敢えて書く、「今、話したことも書いた？」、「分かりにくかった人・忘れそうな人はこれも書き加て。」などのノート記載のアドバイスを行っている。さらに、学生は自律的な学修者となることが求められる。その初歩的なステップは、教科書を読むことであると考えられる。これに対して、プリント主体の授業では、教科書を利用する機会が減りやすい点も板書中心とする根拠の一つである。教科書を読みやすくするために指定教科書は分厚い学問書ではなく薬学教科書を選定し、講義構成は極力、教科書順に構成した上で、各回の該当ページをシラバスに記載している。また、できているつもりで失敗を防ぐため、中間試験を講義3回の範囲に対して定期試験レベルのものを評価試験の一環として実施し、自身の試験に向けた学修を評価・改善できるように講義を設計した。

3) 授業以外の諸活動

自主学修支援ツールとして、演習ドリルを作成して、提出者には採点後返却した。本試験不合格者に対する本試験問題の解説から講義要点を再解説した再試験前補習を実施し

た。授業以外の諸活動 学修成果を向上させるための取り組みとして、1 年次に総合演習 Lv1、2 年次に総合演習 Lv2 として、単位外の演習講義を行った。1 年次は化学系基礎科学の定着および有機化学の基礎導入を目的と、2 年次は有機化学の定着を図るため演習授業を実施した。

4. 学習成果

1)2025 年度 化学系基礎科学 授業評価アンケート結果

この授業は身に付きましたか:5 段階評価のうち 3 以上の評価 98.1%

到達目標を含め、身に付いたと思うものはどれですか:学問的な知識 96.3%、国家試験・CBTに関する知識 77.8%

資料・板書の内容は適切でしたか:ちょうどよかった 92.6% 図の大きさは適切でしたか:ちょうどよかった 96.3%

2)2025 年度 化学系基礎科学 成績

単位認定率:86.0%

5. 改善のための努力

授業評価アンケートで学生自身は、この授業は身に付きましたかに対して高く評価をしているが、試験での合格率は決して高くない。そのため、学生が陥りやすい問題の「高校から大学で求められる到達目標へ速やかな移行」を講義や中間試験を通して学生に伝える。一方で、成績評価が B 以上の学生の割合は前年度と比較し増加したため、改善の方向性は妥当と考える。授業評価アンケートの自由記載部分で学修支援の資材に対する意見の記載を依頼した。その意見を参考に、ドリルは分野毎よりも講義回毎に配布し、講義動画を閲覧可能にする試みを導入する。

6. 今後の目標

1) 短期目標 知識定着を支援する試みの問題演習は有効性が感じられたため、継続する。学修の習慣の多様性に対して、ICT(TOKUMON・manaba)を利用した演習の導入を試みる。これらは本学の学修支援体制の S-プログラムのフレームワークを活用してより効果的な支援実施を試みる。5 月実施の演習試験を中間試験に変更し、定期試験水準を早期に意識させる。CBT・国家試験に繋がる継続的な学修支援の取り組みを 4 年次化学系 CBT 演習対策に化学系基礎科学で扱う無機や構造解析について強化を試みる。

2) 長期目標 全教員で取り組む教育センターの一員として、学生の基礎学力の確実な理解と定着から実践力を高める支援、多様なスタイルをサポートする ICT を活用した自己学習支援システムなどの国家試験対策の立案し、6 年間で国家試験を合格出来るようにサポート体制構築を目指す。

【添付資料】

2025 年度 化学系基礎科学 シラバス
2025 年度 化学系基礎科学 授業評価アンケート
2025 年度 化学系基礎科学 成績